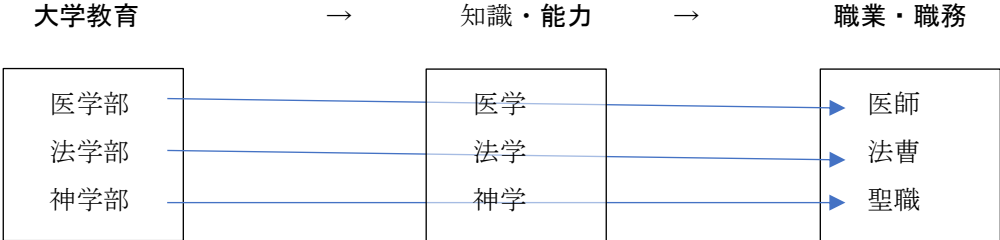


# 大学教育と人材需要

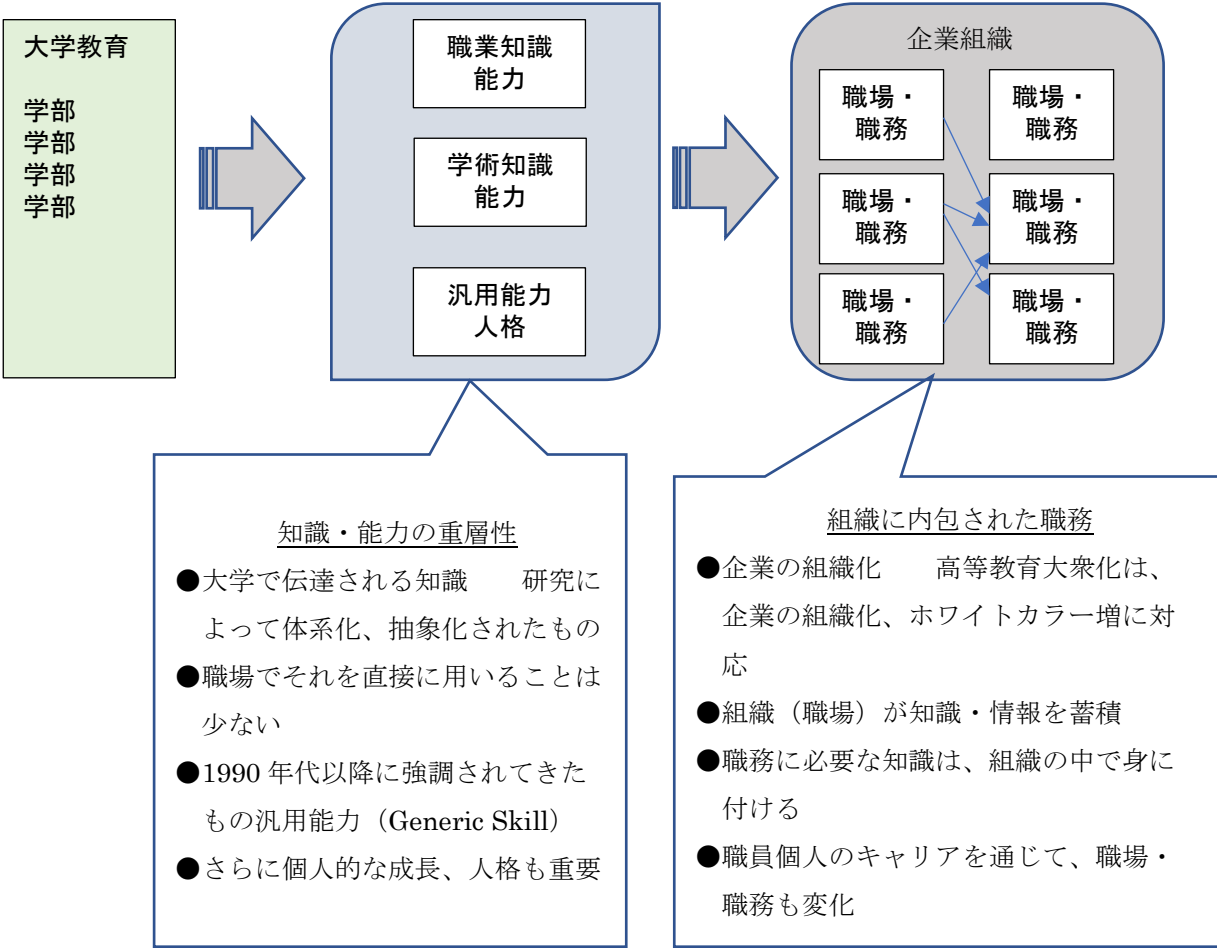
2017年10月3日 金子元久

## 1. 大学教育—知識—職業

古典モデル； 一貫型



大衆社会と大学： 関係が錯綜



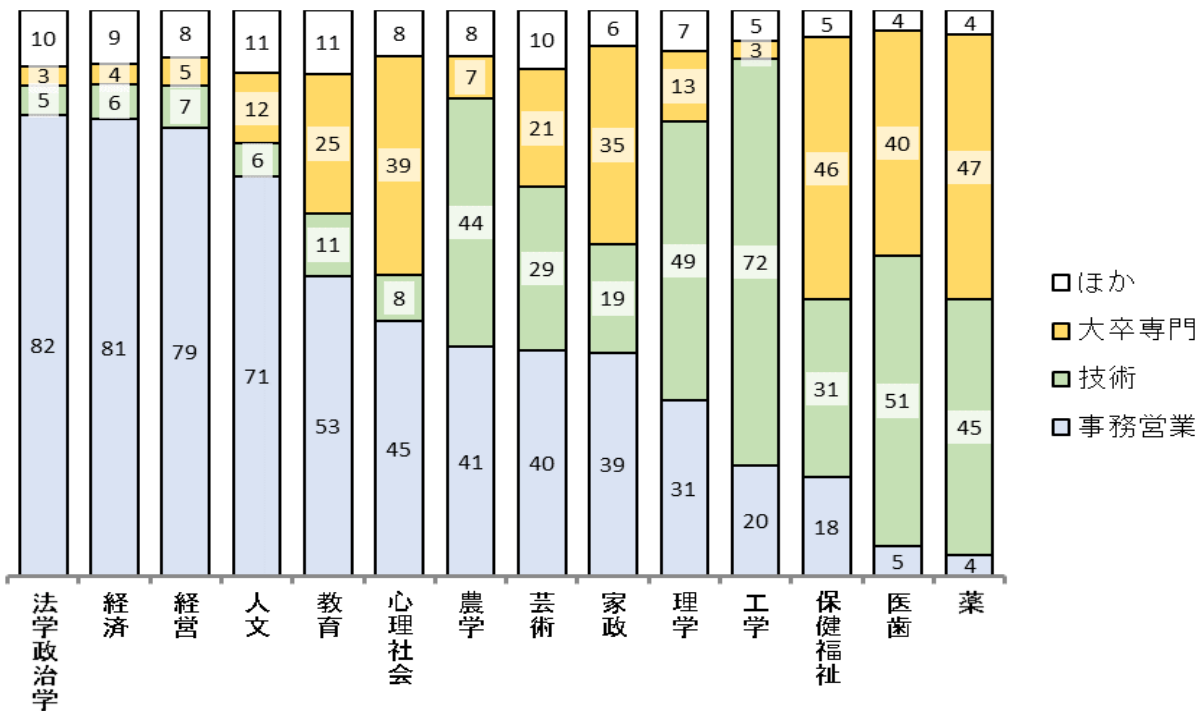
日本では特に非一貫性が著しい

- 大規模企業を中心として、一括採用、終身雇用が、規範となってきた
- 簡単には変化しない 「ジョブ型就職」はあまり進んでいない
- 情報・知識が、組織の競争力の源泉としてさらに重要になっている

## 2. 大学から職業へのルート

### 三つの大分類

- ①事務営業系： 全体の 58 パーセント
- ②技術系： 全体の 24 パーセント
- ③大卒専門職： おもに健康関連、教育。全体の 1 割



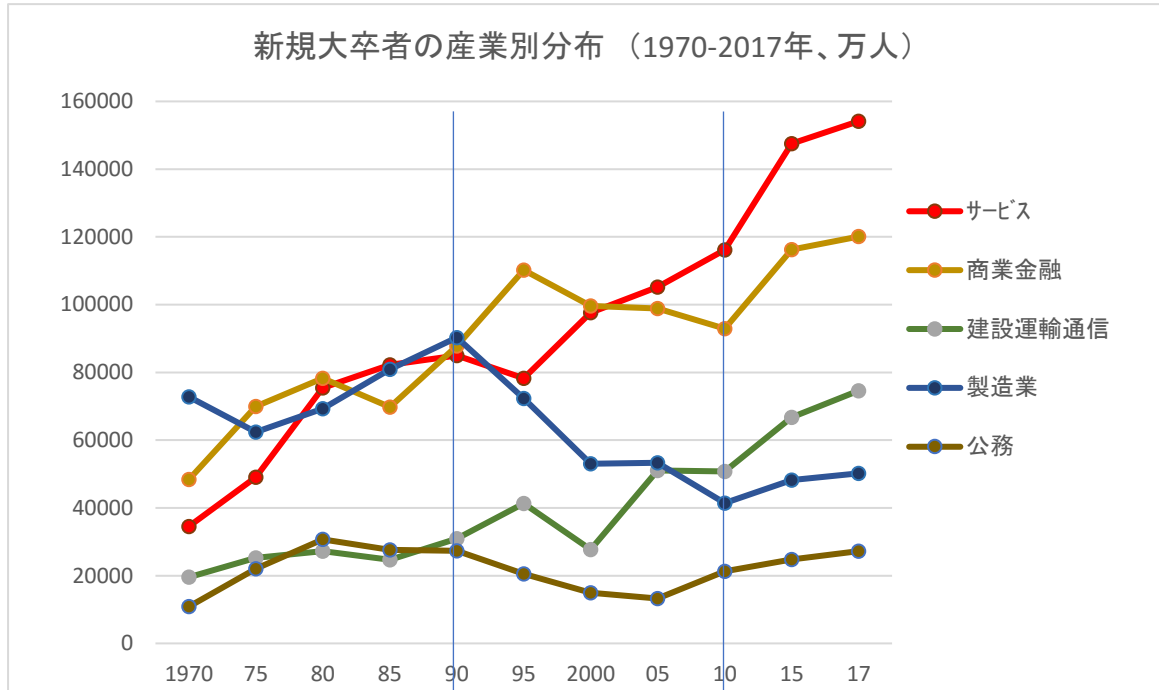
出所 CRUMP 調査、N=24,505

### 大学での専門分野との対応

- 文系の学部は、ほとんど「事務営業」  
しかし専門分野で何を学んだかは、ほとんど問われない
- 理系学部では、そのまま大学での知識を使わないとしても、近隣分野への応用の基礎能力が評価されると思われていた  
しかし理系でも事務営業での就職は多い  
工学卒の 2 割、理学卒の 3 割、農学の 4 割
- 大卒の段階で、大学での専門分野が直接に職業に関連するのは、おもに健康関連、教育  
しかしそれは、大卒者の 1 割

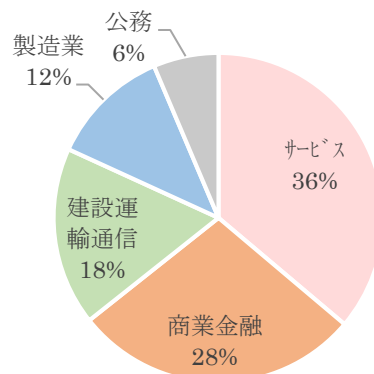
### 3. 産業構造とどう関わっているか

大卒者の就職先は大きく変化してきている



出所： 学校基本調査、2017年度は速報値

- 1990年から製造業が減少  
商業金融、建設運輸、通信が拡大
- 2010年 リーマンショック以降  
サービス業が特に拡大
- 結果として大卒の4割近くがサービス  
3割が商業、金融



#### 大卒労働需要に何を意味するか

- サービス業の内容はきわめて多様  
健康関連、教育関連が大きい。  
それ以外はきわめて多様。しかもさらに多様化し、拡大している
- 商業金融は、景気動向に左右されている。趨勢的に拡大するか否かは分からない
- 21世紀に入ってIT関連の技術革新をもとに、通信分野でかなりの需要が生じてきた。  
しかしこれも、これ以上、雇用の拡大につながるかは疑問

#### どのような知識・能力が必要となるか

- とくに大きく労働需要が拡大する単独の産業部門があるようには見えない
- 多様な社会や人間のニーズに対応して、様々な企業・組織ができる。組織自体も多様化する  
そのそれぞれで、様々な職務ができるのではないか
- 一般的にどのような知識・技能が必要となるかを、抽象的に議論しても意味はない  
多様なアプローチを可能とすることが課題

## 4. 大学教育と職業との関係の再構築

### 三つのアプローチ

#### ① 専門分野別の知識修得標準の形成

- 学部・学科別に、修得するべき職業、学術的知識、汎用能力、の達成目標を設定する

例： 職業別学力テスト、職業ア Krediyteeshyon  
分野別参照基準（イギリス Subject Benchmark Statement）  
チューニング(Tuning)、

- 職業ア Krediyteeshyon、チューニングでは、雇用者側の、意見を聞く工夫

#### ② 汎用能力形成のシステム化 達成度評価枠組み（Rubric）

学修過程において修得するべき、汎用能力、知識等の目標を設定し、  
それを測定する評価枠組み（rubric）を形成する

例： アメリカ、AAC&U Value Rubric

#### ③ 教育プログラム

学位（教育）プログラムの設定 — 教育・学修効果 — 労働市場への受け入れ  
この過程をモニタリングして、連続的な修正を加える

### 現実的な可能性と選択

- 上記の三つのアプローチは相互に排他的ではない。
- ①、②は現在の学部・学科を前提として可能。すでに日本でも試行されている  
ただし、一般には教育の側の論理が強い。労働市場でのニードとの関係をどう確保するか
- 教育プログラム型のアプローチは、現在の法的枠組み（設置基準等）の改革が必要

### 私見

- 現在の学部、学科の枠組みは、いずれ修正しなければならないのではないかと  
社会科学系は選抜性の高い大学では変わっていないが、その他では実質的に学位プログラム化しつつある  
「地域」「社会」などの新型学部も、さらに修正していく必要が生じてくる  
理系も、研究室主体型から、教育プログラム型に変えるところがあってもよい
- イメージとして、異なるタイプの教育プログラムが並存する形になる形が考えられる  
従来型の学問分野を中心  
教養型  
専門職（従来型専門職、流動型専門職）
- 教育過程、学修成果、社会での受容、の過程をモニタリングし、修正する仕組みを、  
マクロの評価メカニズムと、各大学の自律的改善プロセスを組み合わせ形成することが必要